

はれたらあの丘
ふたりで



はれたらあの丘へふたりで



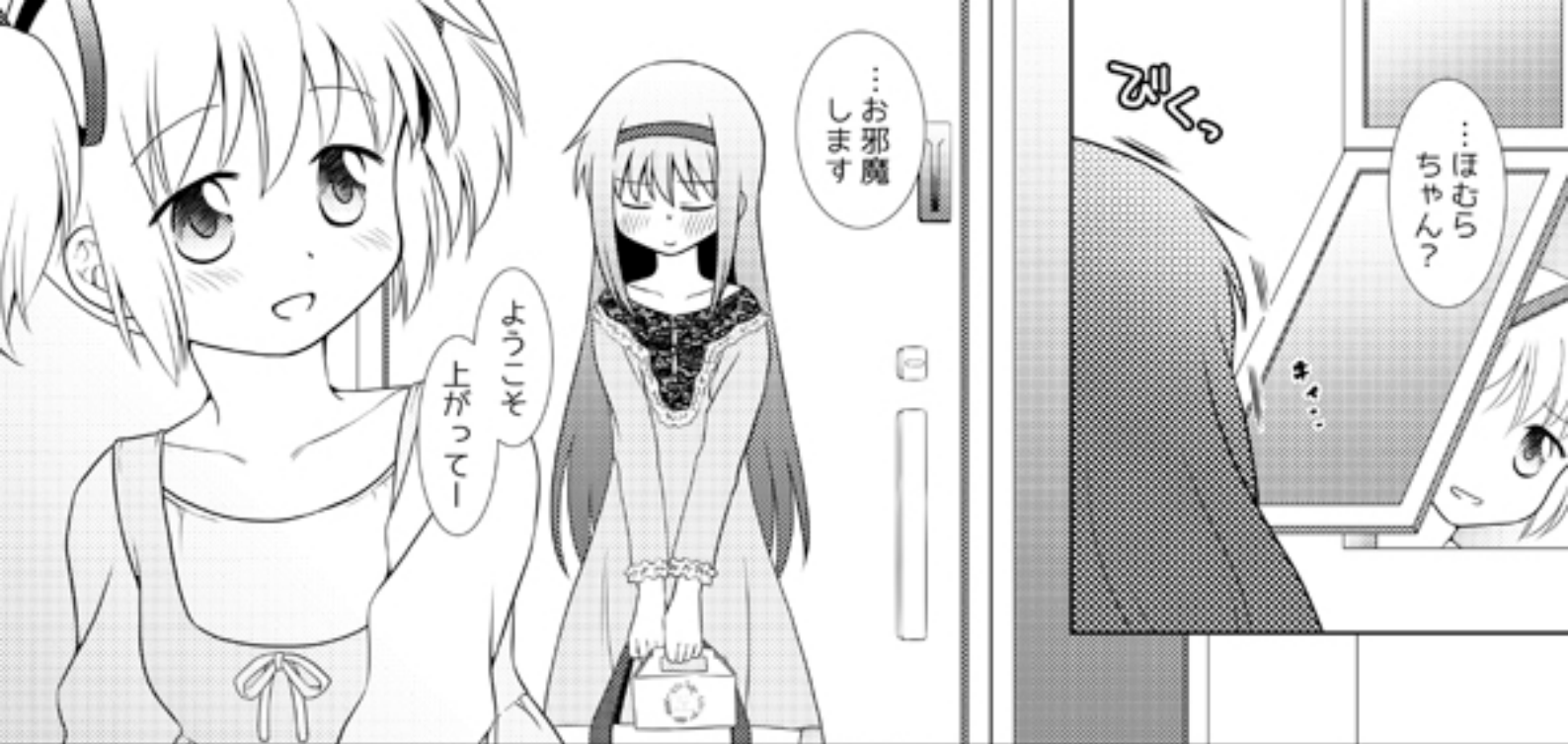
ママの
ちよつとした
出張

パパは
観光がてら
皆で行こうと
言ったけど

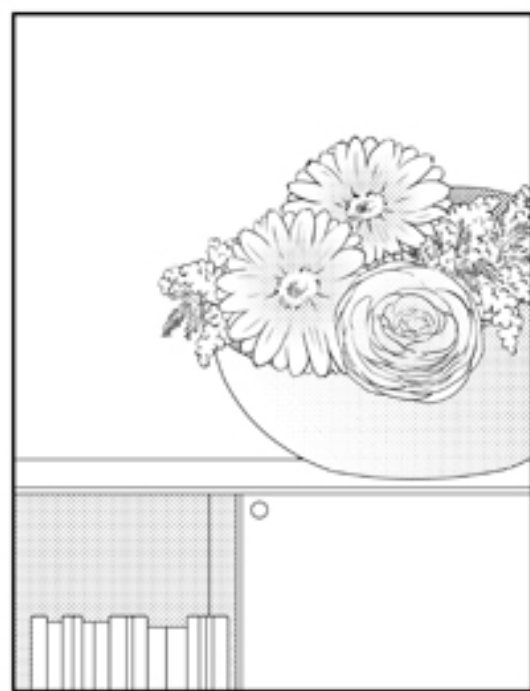
わたしは
テストもあるし
ほむらちゃんを呼んで
お留守番するねって
言ったの











真面目
だよわ...



...ほむら
ちゃんて

.....
「おまわり」
したいね
なんて

我ながら
すごい事
言っちゃった

わたしなんか
昨日からドキドキして
今も勉強なんか
手につかないのに



ほむらちゃんは
平気なんだな...







できる
ことなら

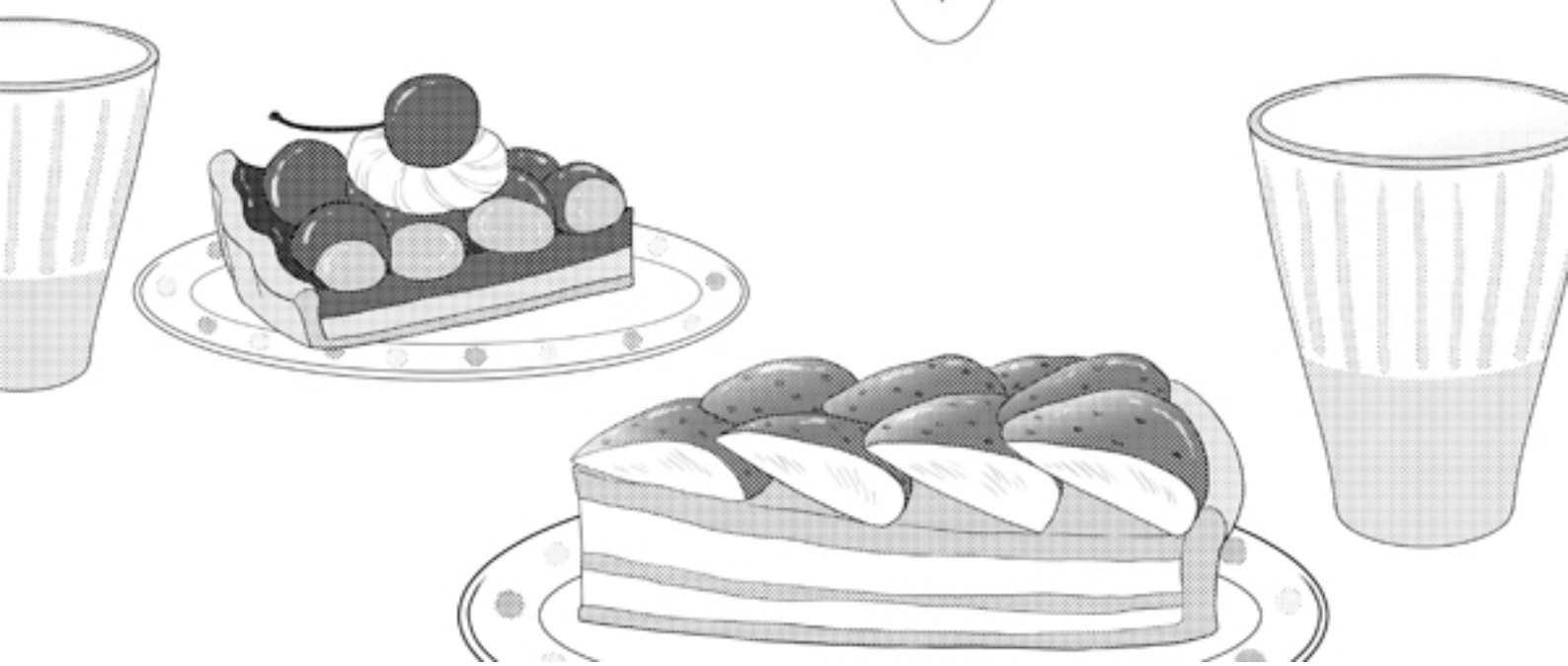
ふわふわ
くすぐったい

こんな
幸せな気持ち

…しようが
ないなあ……

ほむらちゃんも
感じていたら
嬉しいな——

——
明日？





うん

晴れたら
お出かけ
したいなっ



いいわね
どこにする？

まどかは
バラ園に
行きたがって
かしら？



んーでも

二人で行くなら
どこでもいいかな

それなら
ゆっくり
考えればいいわ



楽しみに
しててね！

こっちも絶対
おいしいから！

…あら
ケーキを
食べているのに
もう夕飯の
はなし？



んーっ

ケーキ
おいしいーっ

そういえばね
今日はパパが
カレーを作っ
てくれたの









これ以上望んだら
罰が当たる
気がして.....

幸せ過ぎて





—わたしは
ほむらちゃんが
居てくれれば
恐くなんてないよ

…まどかは

恐くは
ないの…?



…でも
わたし

欲張りなの…

こんなに
幸せなのに

ほむらちゃんが

好きで
好きで

もっとあなたを
知りたくて

あなたと…深く
繋がりたい

全部欲しくて

止まらないの



我儘で…
ごめんね

でも嫌いに
なったら
…やだ

ばかっ
嫌いになんて
なる訳…っ!
きゃっ

…でもっ

恥ずかしいところも
かっこ悪いところも
今まで散々
見られてるのに…っ
これ以上なんて…っ

えー?



それにね？

——ずっと
頑張ってきた
ほむらちゃんは

かつこ
悪くなんか
ないもん

神様は
頑張った人に
バチなんて
当たらないの



あなた
言うなら
信じるしか
ないわね

……



私の

女神様





いざとなると
緊張がふり返して
きたりして

キミ...

……なんて
思ったりも
したけれど



…あんなこと
言うんじゃ
なかったかな

キミ

—まどかか？



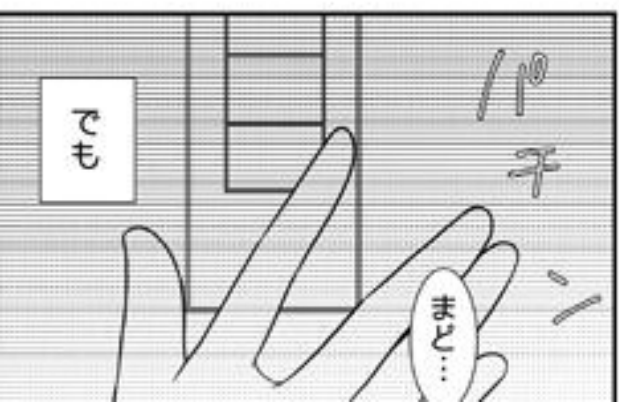
心臓の音

ほむらちゃんに
聞こえちゃうんじゃ
ないかな



こっち
向いてよ

…ずるいよ
ほむらちゃん



でも

まどか…



もう
指先が
焦れてる

ほら



どんなに
恥ずかしくても





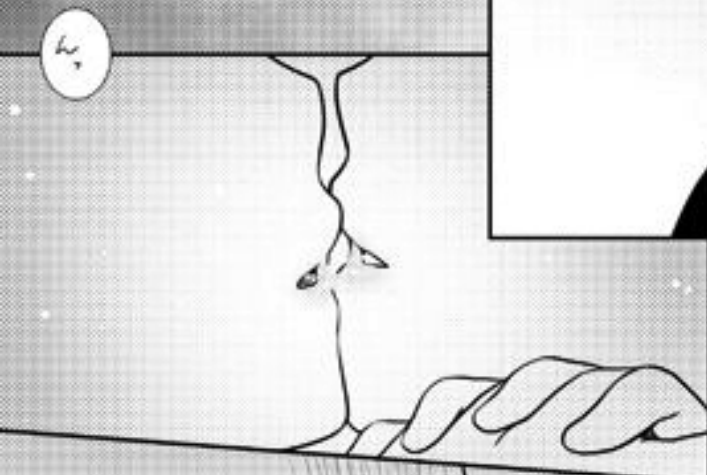
ほむらちゃん

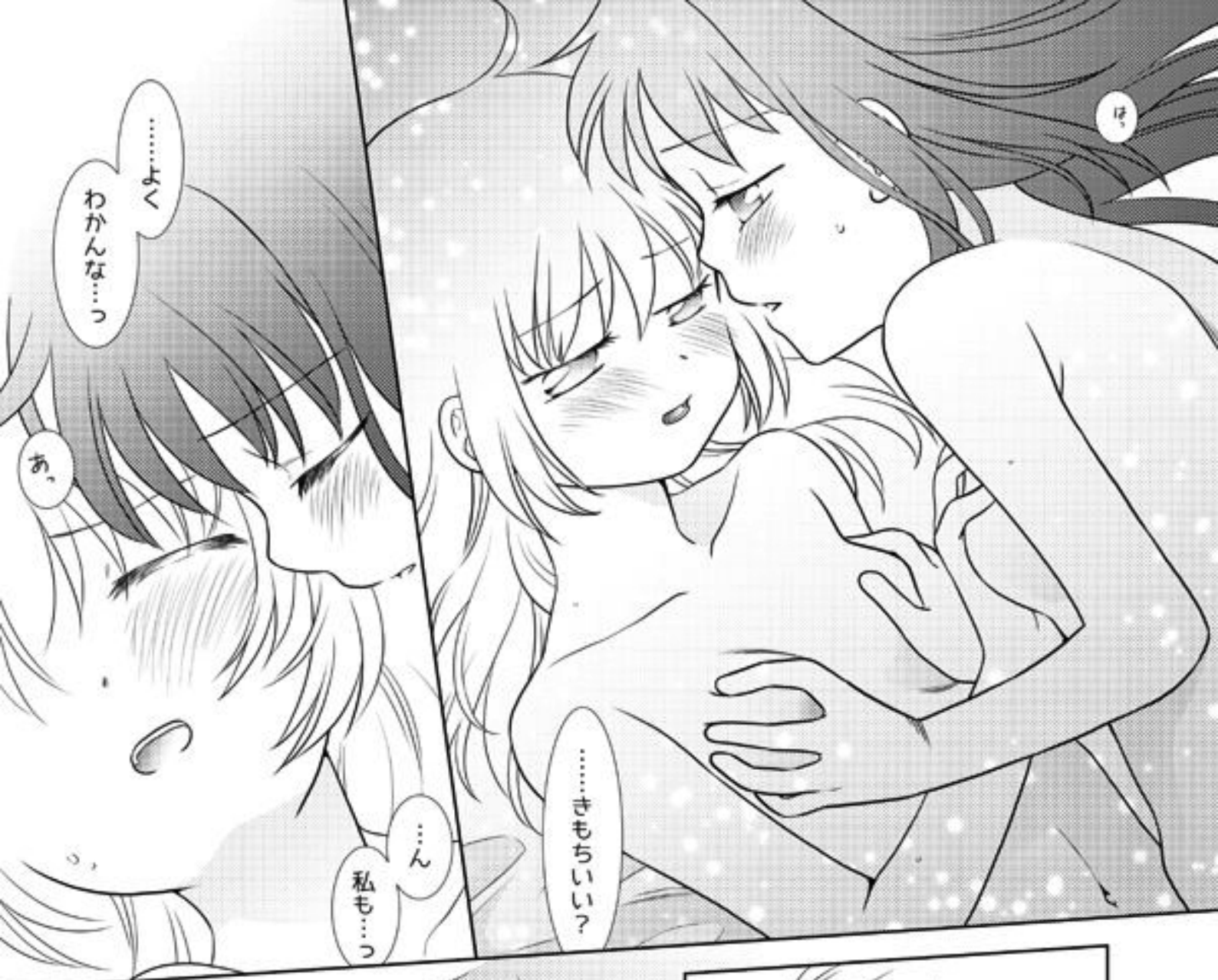
飛び込むなら


あなたじゃ
なきや

嫌










……まどかの
こんな顔
初めて見たわ…



んっ



そんな顔するって
知っちゃったら…

私だって…

もっと欲張りにな
る…



……ほむらちゃん、は

…イヤじゃ
ない……？

……まどかっ

そんな事
思う訳がない



っ



——まど…か？！



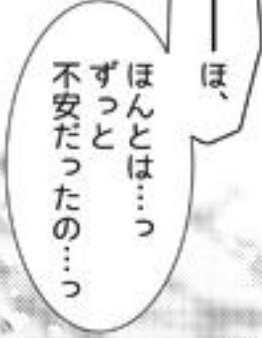
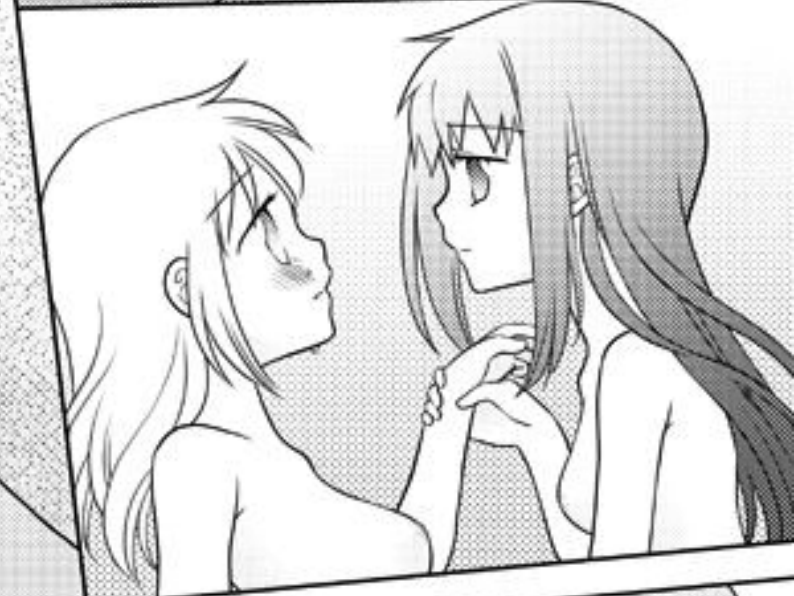
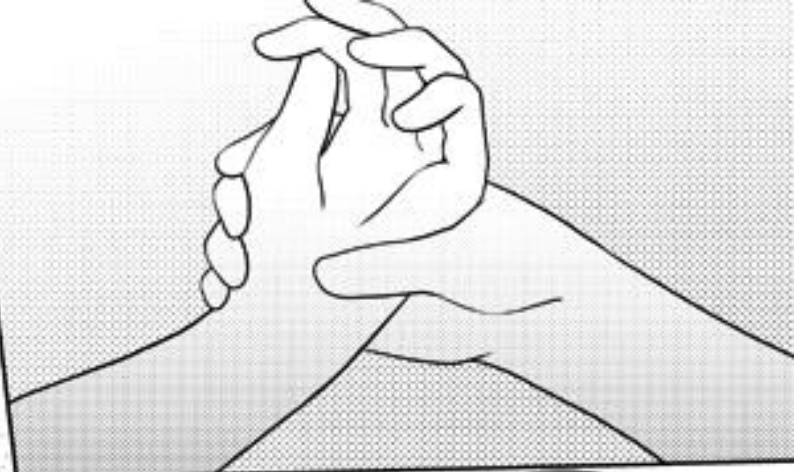
ねえ
どうしたの？！

私…
何かした？

ちが…
ちがうの

ごめん
ほむらちゃんは
悪くないの…っ

ぽっ





でも
そうじゃないって
やっど……

あ、姉さん……
なご……



ほ、
ほむらちゃんが
イヤイヤ付き合っ
てくれるだけだっ
たらどうしようっ
て……

でも……
怖くて
聞けなくて……



……ごめん

ごめんね
まどか



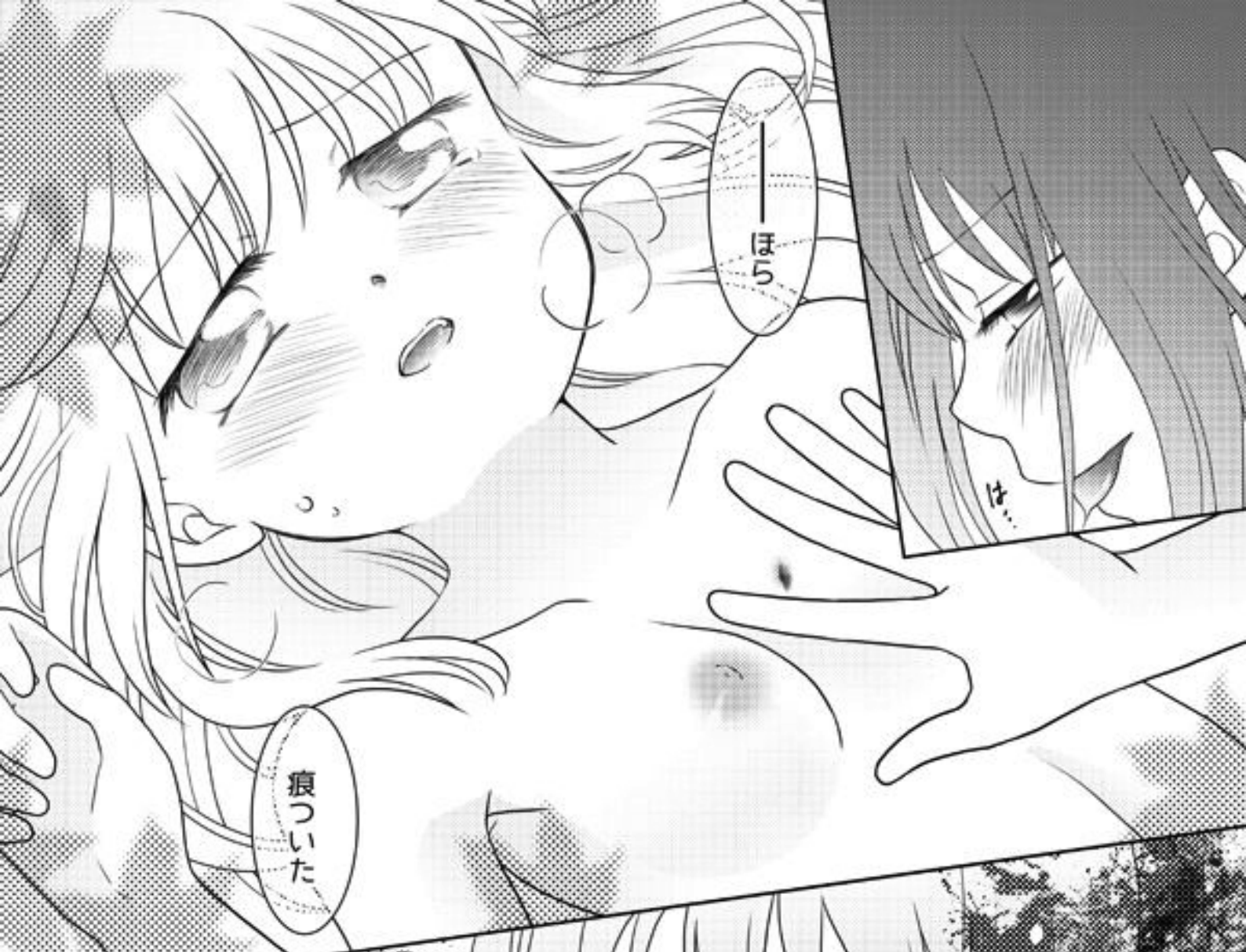
止まなくて
なっちゃって……

ごめん……



あなたに
そんな思いを
させたかった
訳じゃないの……

……ごめん



ほ

ほ

痕ついた



——知らないから！

私、きつと
歯止めが効かなく
なるよ……！

……何するか
分からないん
だから……！！

まどか……が
そういう事を
望んでるって
わかる……けど……

でももし
あなたが
怖がっても

止められなかったら
どうするのよ……！！

ほんとに……っ
もう……っ！！





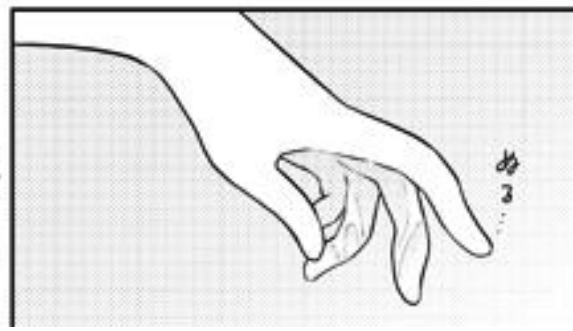
きゅん

ふっふ

ん…
まど…っ
ぬれ…てる…

や…っ

ほむらちゃん
…っ…っ





そんな事聞かないでよお……っ



……っ
いいから……っ



う
か
あ
あ
……っ



ほむら……ちや……!!

あっ
はっ

……っ
痛い……?



ううん……でも……っへんなかんじ……っ

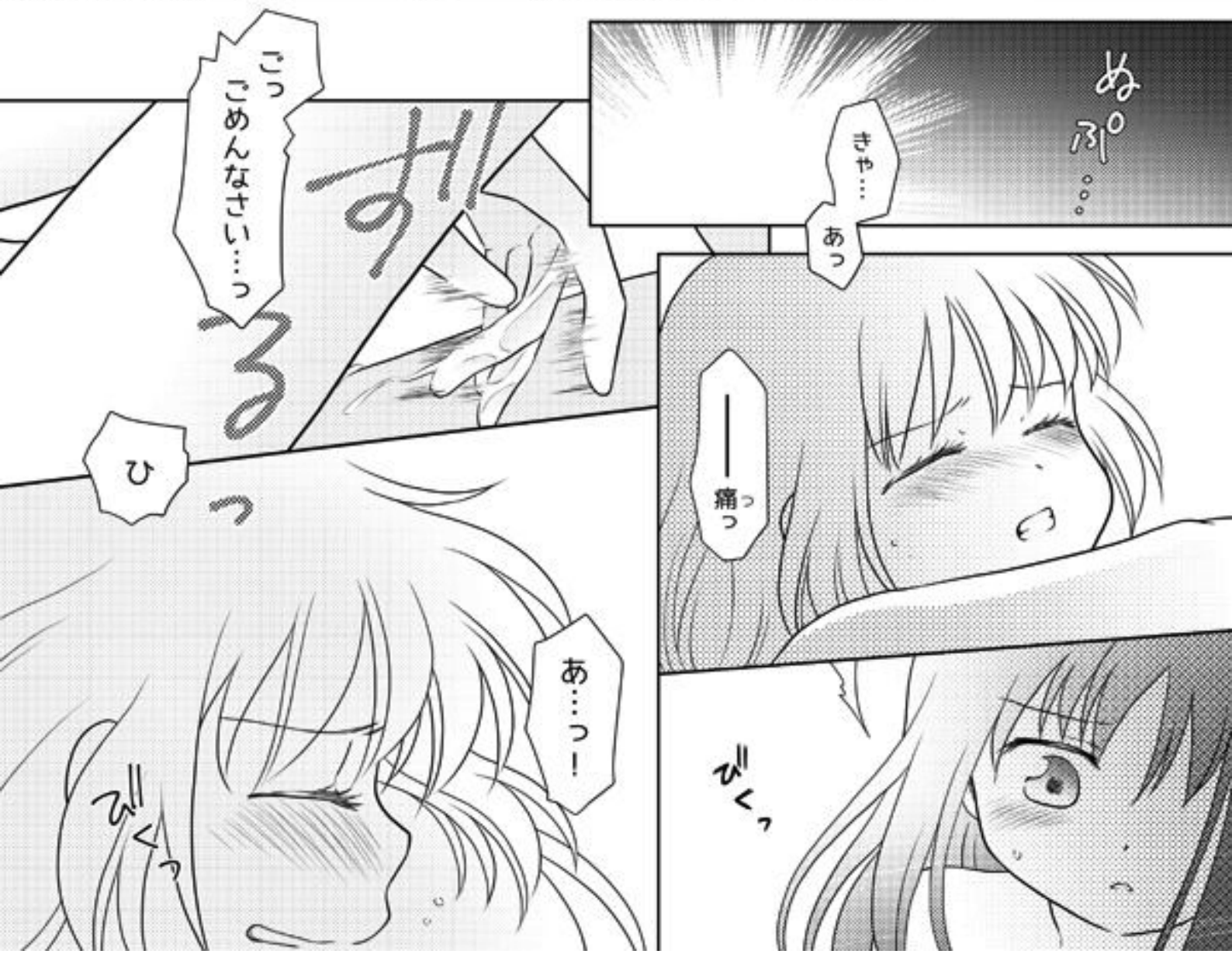
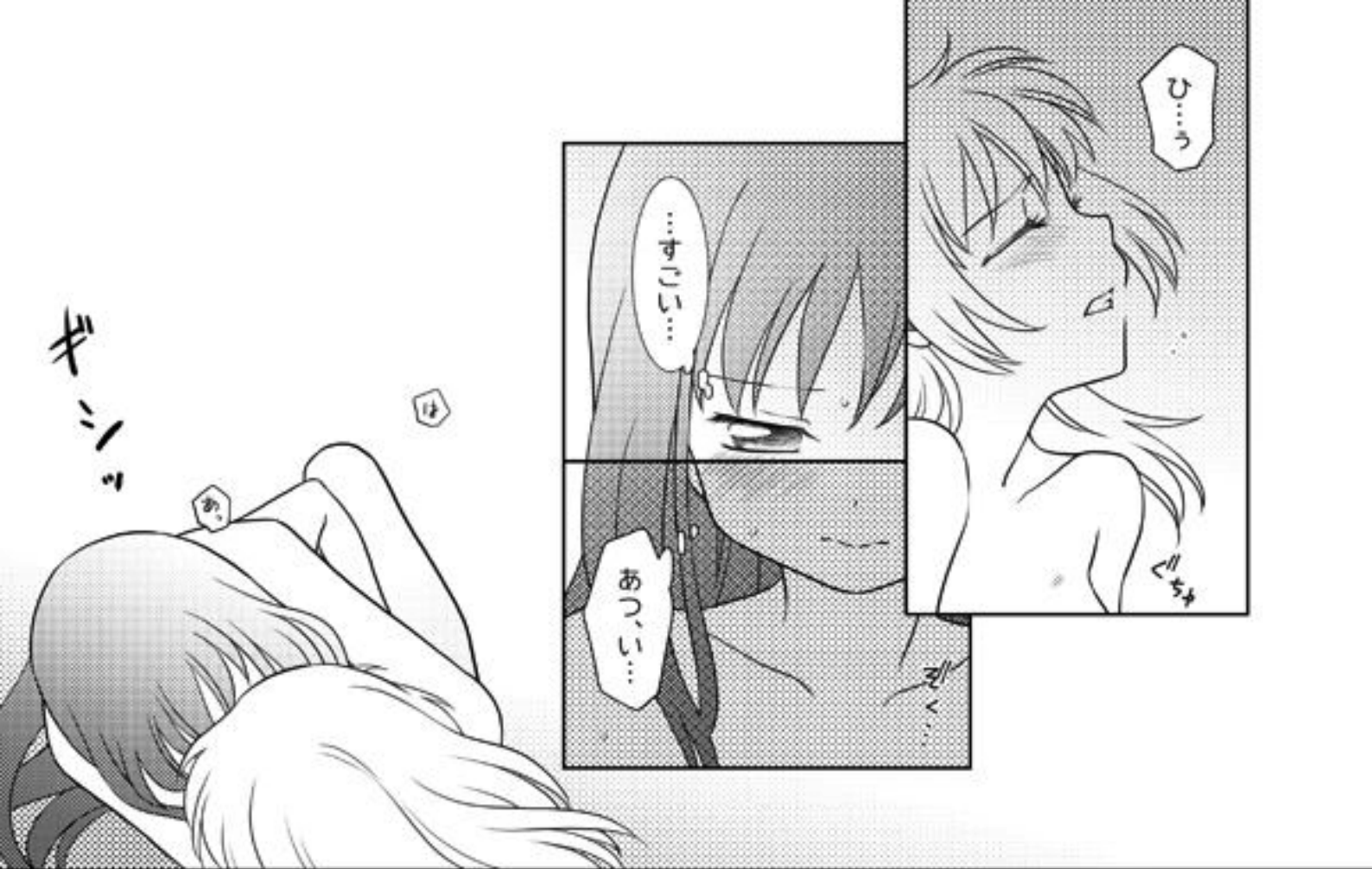


ごめん
なさい……

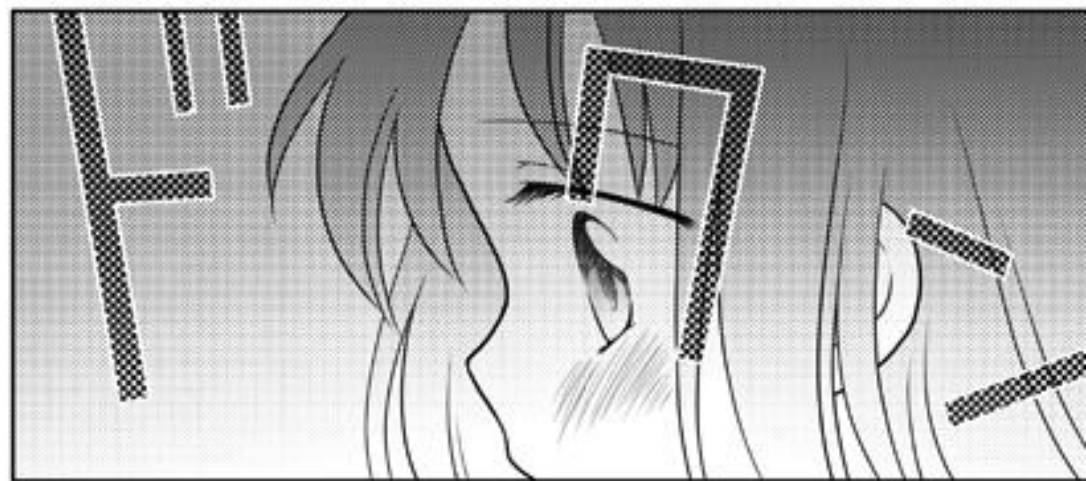
……だつて……
まどかが
かわいいから……



……!!







——まどか
お願い





私…も

まどかの…
ものにして…!!



—怖い?

…「わん
ない……

……緊張
してる?

……っ

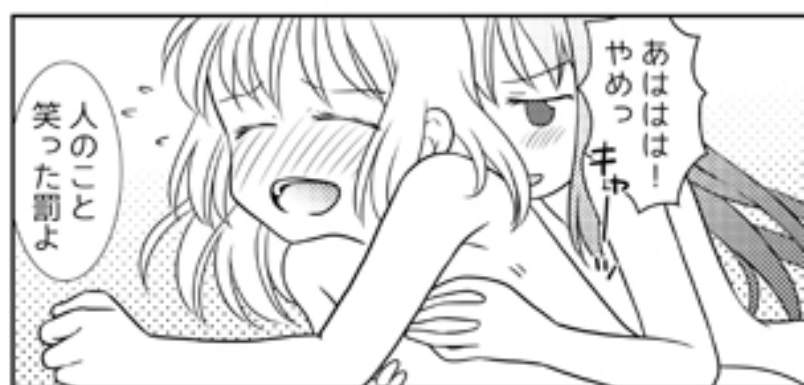




……!!
仕方ない
じゃない……っ!!

気の利いた
言い方なんて
私知らないものっ

ほむらちゃん
ごめんね
そんなつもりじゃ……



…やっぱり私

まどかには
敵わないな



ごめんね

本当は

見透かされて
焦ったの



嫌だった
訳じゃない

…嫌な
わけがない

…ただ、
どうしても





…知らなかった

知らなかった
のよ



あなたの手が
触れる度

まるで心に
直に触られて
いるみたいで

この行為に
意味があるのか
判らなかつた
だけ

だってそれは
男女が生殖の為に
行うものでしょう？



こんなに

私の中があなたで
満たされるなんて

まどかに
触れられるの

気持ちいい

あなたに
触れる事を

許されて
いるのが

嬉しいの





…だって
うまく
触れないわ

や…っ
ほむらちゃん
やらし…っ

…まどか
もっと脚
開いて



—
……
!!

や

あっ



とめてえ…

も
だめっ

ほ
むらちゃん…っ



なんでっ
……っ

じゅ…



…ほむら
ちやあん……

…ずるいわ

そんな
熱っぽい
目をして



今度は
わたしが

いっっぱい
してあげる
からね……!

えっ

え

…えっ?




今度は


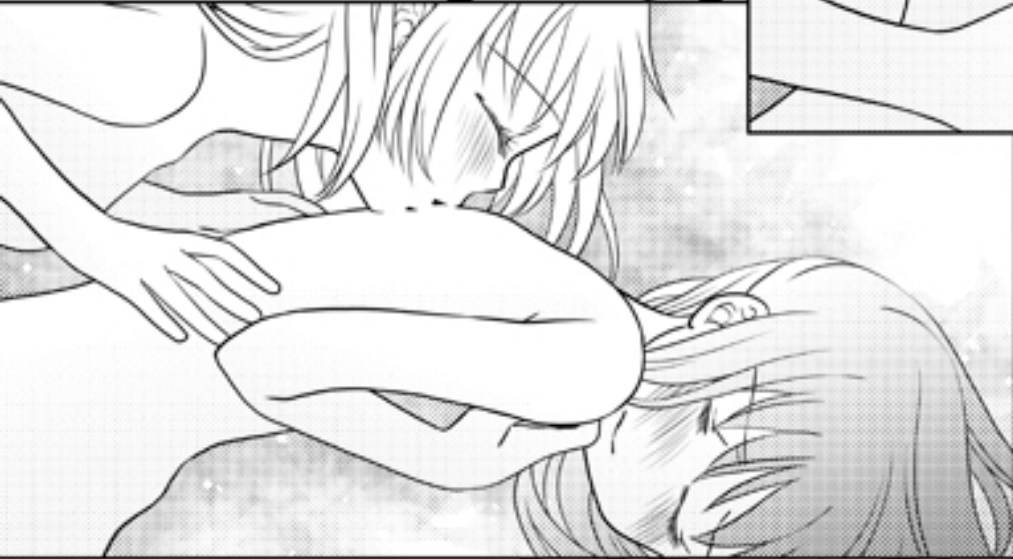
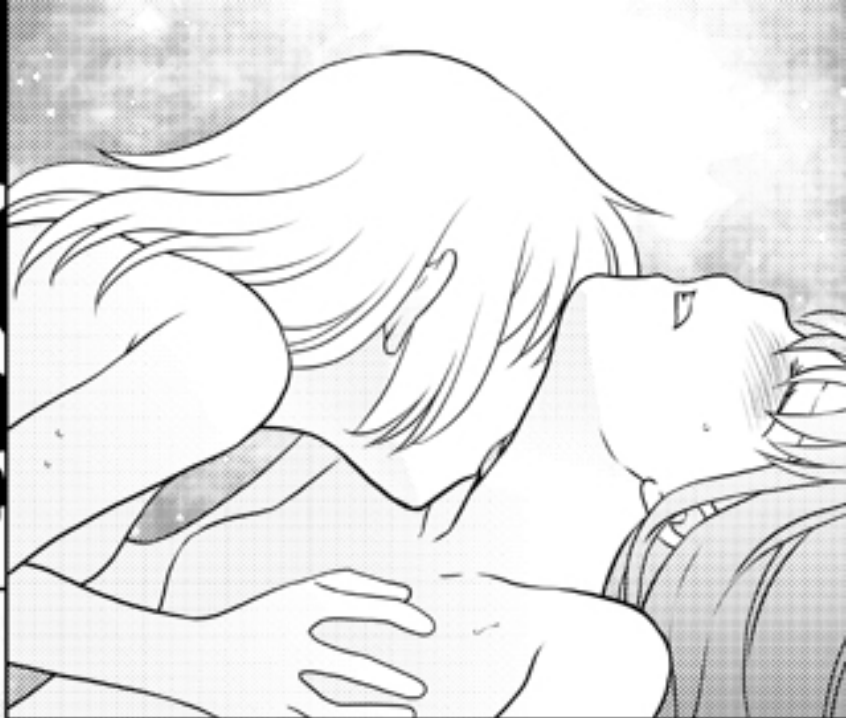
ほむらちゃんが
黙る番

わっ私は……

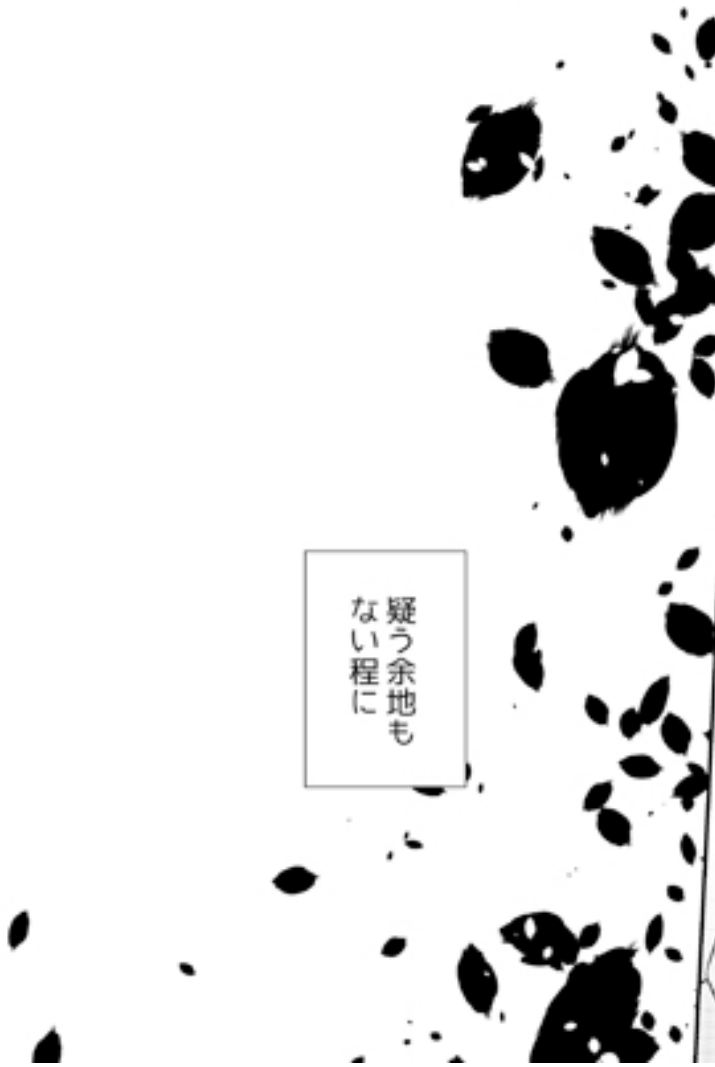
じー




そっか
こういう事
だったんだ



いっそ
暴力的に



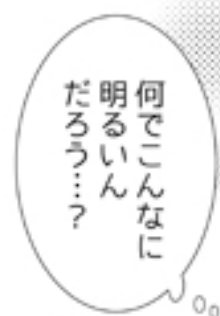
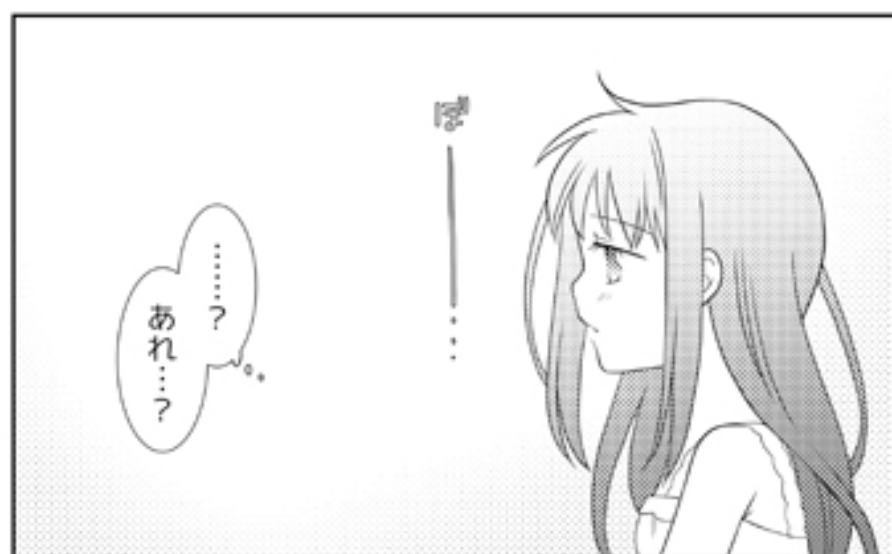
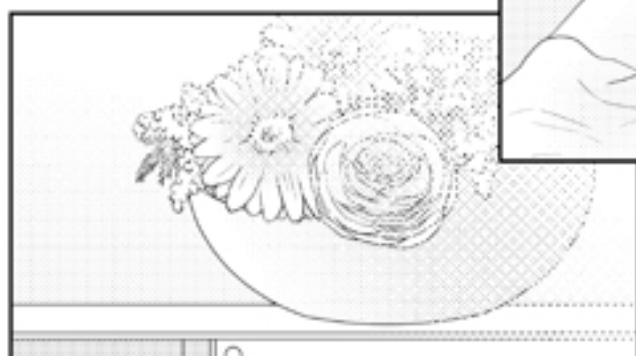
疑う余地も
ない程に



私の中に
刻みつけ
られる

愛されている







まだ、
けど...

まだ感触が
残ってる...

駄目じゃない
折角作って
貰ったのに!!

あつ
あつ
結局晩ごはん
食べてないっ



駄目じゃない...
二人してそんな
夢中になっちゃ...



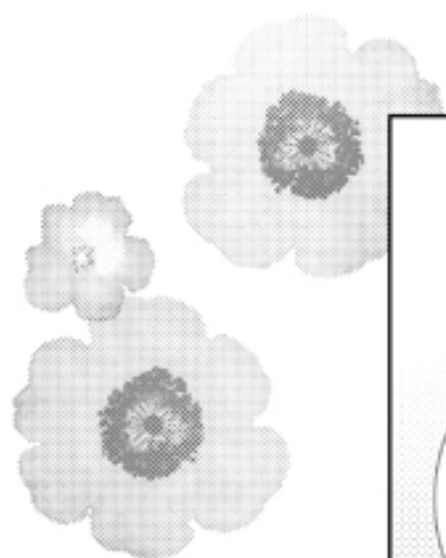
この腕も
身体も全部
まどかのもの
.....



.....

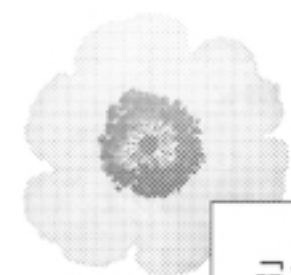


こんな風に 自分の身体を愛おしく思う日が来るなんて
想像もしていなかったの



自分が
何の躊躇いもなく
まどかに触れている
事に驚いて





…確かに
今日は
「記念日」だ





あなたの手で

私の
生まれ変わった





えへへ

じゅわん
ー



そっか

私も



お外
だい
ねえ
天気

どっか
お出掛け
する？

サッ

ーそうね

でも
とりあえずは
二度寝かしら

もぞ...
ニ

えー?

カスツツ

もう
しかたない
なあ……

…あぁ

触れる素足
気持ちいい

あなたの隣
温かい



結局私達は
すっかり寝過こして
しまったけれど

寝惚け顔の
私を見た
まどかが

やっと目の隈が
消えたね、と

そう言って
笑った



どもども、きのです。
読んで頂いてありがとうございます。
わたしはもうこっぴどく見返せないの
で代わりにもんどりうって頂ければ幸いです……。

曉美ほむらという少女の救済、しあわせについて、
随分長い間考えておりました。
つーてもそれ程難しい事だとは思っていませんでした。
だってあの世界には悪意がないのだから。
シビアではあったけれど誰もが必死であっただけで。
ほんのひとつ掛け違えたボタンを外してしまえば
するすると収束してゆく様な、そんな気がしていました。
そんな訳で「わたしはこれこれこーいう訳で
皆がしあわせになる世界は有り得ると！思う！」と
薄い本で主張してみた事がありますが
まあ薄い本が200P超えましたよね……。
曉美ほむらが、あの自己肯定感のうっすい女が
どこまで逃げ道プチプチ潰せば「それ」を受け入れるのか、
自分を納得させずにそんだけかかったの
でマジ曉美ほむらめんどくさい。しゅき！

はれたらあの丘へふたりで

……で、だ。

理詰めで曉美ほむらの救済について考えたあと、
逆サイドからもつついてやりたいなと思っておりました。
本能という、身の内からどーしょーもなく溢れてくるもの。
どんだけコ難しい事考えていても
私たちは肉の身を持つ獣だということ。
分泌される脳内物質ひとつでどーしょーもなく
幸福感でいっぱいになってしまうこと。
それはもう、見えてる世界の色が変わってしまう程、簡単に。

それが愛に届いてもたらされたなら、
どれ程彼女の肩の力を抜かせさせてくれるだろう、と思うのです。

…そーいう訳でこのおはなしは自分の中ではカンパネラと
地続きになっておりますが、まあどーでもいいことです。

わたしは曉美ほむらの不器用で、ひたむきで、臆病で、
どーしょーもなく間違えているところを愛しておりますが
それでもいつか、何事かが起きて彼女の中の何かが変わって
柔らかく微笑むところを見たいのです。
見てみたいが故に手を変え品を変え捏造活動に勤しんでおりますが
いつか来る続編で、誰も想像してなかった物語の末に
みんなで笑い合っていると見れたらいいと、願っております。

……まあそれはそれとして、
まどほむ初夜とか絶対漲るやん！！！！とか
そーいう本でした。

お粗末さまでしたよ。

2016/06 きの





げん子のすみっこにかいてたrkkgk

はれたらあの丘へふたりで

2016/06/26
ぺこん：きの
unikio@hotmail.com
twitter : @kiotaro3
pixiv : 211530

print : sungroup